



## ハザードマップの活用方法

ため池が決壊した場合に迅速かつ安全に避難するために日頃から準備しておきましょう！！

- 想定される浸水範囲や深さなどをチェックしましょう！**
  - このハザードマップでご自宅の場所、ため池の場所を確認！
  - ため池決壊による浸水範囲、浸水の深さ、到達時間などを確認！
- 避難場所を確認しておきましょう！**
  - ため池決壊時の指定避難場所、緊急一時避難場所を確認！
  - 避難時間がかかったり避難途中で浸水した場合に緊急避難できる場所も探しておきましょう！
- 避難場所までの避難経路を確認しましょう！**
  - このハザードマップで避難経路、避難時の危険箇所を確認！
  - 避難場所まで実際に歩いて、移動時間を確認しておきましょう！
- 防災情報の入手先を確認しておきましょう！**
  - このハザードマップで『防災気象情報』の収集先を確認！
  - 携帯電話などに事前登録しておけば外出先でもスムーズに情報を確認できます！

◎国頭村の公表している『防災マップ』も活用しましょう！！

国頭村では様々な災害時の避難に役立つ『防災マップ』を作成しております。このマップと併せて活用し急な事態へ備えましょう！

地震や津波に関する避難情報は『防災マップ』を確認ください

## 国頭村から呼びかける避難情報

警戒レベル	とるべき行動	避難情報等
5	<b>命の危険 直ちに安全確保！</b> 指定緊急避難場所等への立退き避難がかえって危険である場合、緊急安全確保する。	<b>緊急安全確保</b> 災害発生又は切迫
4	<b>危険な場所から全員避難</b> 危険な場所から全員避難(立退き避難又は屋内安全確保)する。	<b>避難指示</b> 災害のおそれ高い
3	<b>危険な場所から高齢者等は避難</b> 避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は避難準備又は自主的に避難をしましょう。	<b>高齢者等避難</b> 災害のおそれあり

令和3年5月改定

## 避難行動の目安

ハザードマップに示す浸水の深さを参考に基本的な避難の仕方を考えましょう。ため池が決壊すると短時間で浸水する場合があります。状況に応じて判断し身の危険を感じたら速やかに避難して下さい。

①ハザードマップで周辺の最大浸水深を確認

②どこへ避難するのかを判断

③以下に注意して避難

<p><b>3.0m以上の浸水</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2階以上が浸水</li> <li>水流が強い場合には木造住宅が倒壊する危険がある。</li> </ul>	<p><b>水平避難</b></p> <p>浸水しない場所(避難所・道路・空き地・高台など)へ移動する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歩きやすい服装</li> <li>徒歩で避難</li> <li>事前に避難先を決めておく</li> <li>高齢者等の避難に協力</li> </ul> <p>※河川から離れる行動をとる</p>
<p><b>0.5~3.0mの浸水</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床上浸水、1階全体が浸水</li> <li>水流が強い場合には木造住宅が倒壊する危険がある。</li> </ul>	<p><b>垂直避難</b></p> <p>自宅や近くの丈夫な建物の2階以上にとどまる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水、食べ物、簡易トイレ、懐中電灯、ラジオ、貴重品などを2階に持って上がる</li> <li>近所の高齢者等に声かけを</li> </ul>
<p><b>0.5m未満の浸水</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床下浸水、大人のひざ下程度</li> <li>浸水の深さが、ひざ上になると歩行は危険。</li> </ul>	<p><b>屋内避難</b></p> <p>自宅にとどまる</p> <p>むやみな移動はかえって危険</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平屋にお住まいの場合は0.5m程度の浸水でも危険な場合があります。浸水しない場所へ避難をしましょう</li> </ul>

(※)避難先への移動に十分な時間と安全な経路が確保されている場合

## 避難時の心得

**安全なルートで**

がけ地や河川・水路沿いは危険なので、できるだけ避けて避難しましょう。

**逃げ遅れたときは**

水深がひざまでである場合は無理をせず2階以上の建物や高台へ避難し救助を待ちましょう。

**協力し合って**

お年寄りや子供などは避難に時間がかかります。協力して早めの避難を心がけましょう。

**他の災害にも注意**

地震や大雨の時には津波や土砂災害などのため池の決壊以外の災害が発生している可能性があります。他の災害にも十分注意を払いましょう。

## 日頃からの心がけ

**気象情報に注意**

テレビ、ラジオや地域の防災無線などから伝えられる気象情報に普段から耳を傾ける習慣をつけておきましょう。

**非常持出品の準備**

非常持出品は両手が自由に使えるようリュックサックにまとめて持ちやすいように用意しておきましょう。

**要援護者に気配りを**

避難の際に支援が必要な要援護者への情報伝達や補助内容を決めておきましょう。

## 災害用伝言ダイヤル

NTTでは災害時に電話で安否確認ができる「災害用伝言ダイヤル」を提供しています。利用にあたっては「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。一般加入電話、公衆電話、携帯電話、PHSから利用できます。

伝言の録音 **171 + 1** + 自分の電話番号を市外局番から入力 **録音** (30秒以内)

伝言の再生 **171 + 2** + 相手の電話番号を市外局番から入力 **再生**

## 防災気象情報の収集手段

- 沖縄防災情報ポータル**  
ハイサイ！防災で〜びる  
www.bousat.okinawa.jp
- 気象庁(沖縄気象台発表)**  
https://www.jma-net.go.jp/okinawa/
- Yahoo!防災速報**  
http://emg.yahoo.co.jp

## わが家の防災メモ

わが家の避難場所		家族の集合場所			
家族の名前	生年月日	血液型	持病・アレルギー・薬など	携帯電話番号 会社・学校の連絡先	